

令和5年度 にしふじのみや幼稚園学校評価

自己評価実施日 令和6年1月12日

学校評価委員評価実施日 令和6年2月9日

学校法人土橋学園 にしふじのみや幼稚園園長 矢部理恵子

学校法人土橋学園 にしふじのみや幼稚園学校関係者評価委員委員長 佐野多知子

1 幼稚園の教育目標

「独り立ちする子」をめざして 「一人一人が輝く子ども」

1 思いやる心 2 丈夫な体 3 考える力

2 重点目標

- ・幼稚園ならではの体験・たくさんのお友達や先生と関わる事によって自立のための基礎を育てます。
- ・「生きる力」「愛」を掲げ、社会性のある子を目指します。
- ・「知育」「徳育」「体育」をバランスよく組み合わせた教育を行っていきます。
- ・研修主題*ボディパーカッションなどの活動を通じて、生きる力の基礎をはぐくむ*

3 評価項目の取り組み状況・達成結果の評価

- ※結果の表示方法
- A 十分に成果があった
 - B 成果があった
 - C 少し成果があった
 - D 成果がなかった

		自己評価		学校関係者評価委員会	
評価項目	評価点	反省と改善点		評価点	意見
1 保育の計画性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育の中での反省を生かし、細かな計画を立てることでより良い保育や行事を行いことが出来たと思う。引き続き努めていきたいと思う。 ・子どもたちの姿に合わせた保育をできるよう柔軟に対応して計画することができたと思う。 ・マンネリ化しやすい行事も担当が代わったり、自分の意識を変えたりすることで雰囲気が変化し楽しめることが出来た。 ・コロナでの制限がなくなったが、再度保育の内容・行事などを見直しながら保育を進めることができた。 ・活動内容を見直したことで時間にも余裕ができ、今の子どもたちに必要な保育を計画することができた。 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の行事は毎年のことなので先生方の工夫、個性が見られるのではないかと期待しています。 ・年間の多岐に亘る行事では教員の周到な準備と、きめ細やかな配慮がうかがえる。 ・行事の担当を毎年一新することや、意識の変化に努めている姿勢はさらによくしていこうとする気持ちであると思う。 コロナから立ち直り、いろいろな取り組みが増えた点については左記の評価通りだと思う。今後も活発な活動に期待しています。 ・コロナの制限が緩和され、気を引き締めるところと、気を緩めるところとで検討されていると思います。その中でも子供たちの為に日々の保育や行事を見直し計画しているように見られます。
		<ul style="list-style-type: none"> ・パートの先生も含め、様々なことに気付いてくれる先生方なので、日々学ぶことが多かった。 ・職員室での教師間の会話から、他学年の子どもの情報も知ることができ、良い時間となっている。 			<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の教育方針を基盤とし、教師が一人一人の子供たちの育ちに重点を置いた保育をする為の努力を重ねていることが伝わり、子供たちの姿に現れているように感じられる。

2	保育の在り方 幼児の対応	A <ul style="list-style-type: none"> ・個々の家庭環境や、これまでの成育歴などを考慮し、家庭と連携をとりながら、保育を行うことができた。 ・個々の姿や困り感を職員間でも共有することで、アドバイスをもらえたり、同じ方向を向いて対応していくことができた。 ・一園一学級の考えのもとどの子も職員みんなで育てていこうとする姿勢が見られた。子どもの成長を全部の先生で喜べる環境がとても良いと思う。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・園全体で子供たちの成長を助け育てていこうとする姿勢が見られます。クラス、学年に関係なく一人一人の子供の個性や特性を全職員で努め共有しようという姿勢がうかがえます。 ・先生方が園全体の事をわかっている様子（情報共有している）で、とてもよい雰囲気だと思う。 ・職員同士でよくコミュニケーションをとり、担任以外の先生も子供たちにたくさん関わっていることや風通しのよさも感じられた。
3	教師としての 資質・能力 良識・適正	A <ul style="list-style-type: none"> ・様々な子どもたちの成長を日々感じられ、嬉しく思う。たくさんの先生方が助けてくれたり、アドバイスをくれ、感謝でいっぱいです。 ・様々な子どもたちの姿があり、活動を進めていく上で個別の対応が必要な子もいますが、寄り添い、預かっていることの責任感を忘れずに頑張っていきたいと思う。 ・パートの先生たちとも連携をとりながら、意見交換をしたりしながら保育を行うことができた。 ・様々な個性を受け入れながら、その子らしさを大切し寄り添っていくことを引き続き頑張っていきたい。 ・職員の仕事がしやすいよう教材の管理に気を配った。もっと気を使うべき所は多く至らない点ばかりだったが、効率よく仕事が進められるよう管理していきたい。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・教師の資質、能力には個人差があると思うがおおかた優れていると思います。 ・年長児はボディーパーカッション、マーチング演奏を通し子供の集中力や、創造力をバランスよく育てておられると思う。 ・個々の園児を注視し必要に応じて言葉がけを行い、やる気を刺激しながら、褒める姿勢は評価できる。 ・先生方が元気があり、いつも笑顔で歌が上手な先生が多い。凄いことです。 ・コスト意識を持つことで効率よく業務が遂行でき、保育に反映できることを期待している。
4	保護者への対応	A <ul style="list-style-type: none"> ・保護者とのコミュニケーションはとても大切なので、どう接したらよいのかと周りの先生方を見ながら学んでいます。 ・保護者と密に子どもの様子を話し合うことの大切さを感じた。これからも、保護者との関りを大切にしていきたい。 ・コロナ禍で生まれ、入園まで同年齢の子との関りが少なかった年少児の保護者の方同士で関りが持てるよう心がけて過ごした。 ・保護者に自分が話した言葉（内容）が、自分の意図しない意味で伝わることを学んだ。どんな言葉を遣い、それがどのように伝わるのかよく考えて言葉を選んで、子どもの姿をしっかり伝えていきたい。 ・心配の多い保護者に対して日々の何気ない姿等を伝え安心できるように対応をするようにした。様々な考えの保護者のいる中でトラブルなく安心して過ごして行ってほしいと願う。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・登降園時、面談、保育参観などの機会を通じて保護者が相談しやすい状況環境を作り、努められている。 ・保護者とのコミュニケーションは言い方や言葉の選び方によっては意図しない伝わり方をしてしまうので、慎重になる所だと思います。でも、子供たちのことを思うのは保護者の方も職員の方も同じ気持ちだと思いますので家や園での子供たちの情報を交換・共有するために上手くコミュニケーションをとって子供の成長と一緒に喜び合える関係性を築いてほしいです。 ・保護者の考え方もそれぞれ様々である、どの保護者に対しても差をつけることなく向き合いその考えを真剣に忍耐をもって聞くことを大切にしていたと思う。
		<ul style="list-style-type: none"> ・園外に出ると、声を掛けてくださる地域の方も多く、周りの方々に支えられていることを改めて実感する。 ・今年は初めて「1年生の日」を設け、卒園した子どもたち・保護者の方との時間を設けた。卒園した子と夏休みの1日を使い充実した時間を過ごすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな人が増えてきたので、登下校の時に子供たちに声をかけてくださることは、本当にありがたいです。 ・「1年生の日」とても良い取り組みだと感じます。学校と幼稚園の違いに戸惑う子もいると思いますが、慣れ親しんだ幼稚園に来てもいいんだ！行っていいんだ！と安心できる子もきっといると思います。

5	地域の自然や社会との関わり	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路にしている小学生には卒園児だけでなく声を掛けるようにしている。怪我やトイレ等困った時には助けられるように見守っていると思う。 ・今年度もジャガイモ掘りを経験させてもらい、子どもたちもとても楽しそうで、地域や保護者の方の協力が有難かった。 ・地域の方々や卒園児の子どもたちを含め、他の方々にも挨拶をしたり、声を掛けるように心掛けている。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園長先生はじめ先生方が登降園時に正門で声をかけながら出迎え、明るい挨拶を地域の方にや卒園児にも行われる姿を拝見します。 ・いろいろな行事を行う上で、地域の方の理解や協力なくしてはできないことだと思います。声掛け・挨拶、回覧板等で地域の方の理解を得たり卒園児だけでなく小学生に対しても気を配れていると思います。 ・卒園児や未就園児とかかわる時間を設け気軽に子育て世代の親も幼稚園に遊びに来れるよう環境を整えていたと感じる。(園庭開放、遊びの広場)
6	研修と研究	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナが少しずつ収まってきて、対面で色々な先生方の話を聞くことができる機会が増えてきた。自分自身の知識を増やすためにも、積極的に研修に参加していきたい。 ・今年は夏に公開保育をやったことで、他の園の先生方からアドバイスをいただくことができた。これからも、よりよい保育ができるよう精進していきたい。 ・夏の研修で、ミドルリーダー研修を受けさせてもらった。3日間で他の園の先生方と意見交換もできてよかった。 ・公開保育を行ったことで、他園の先生方から様々な意見やアドバイスをいただくことができ、勉強になった。願いをもって保育を計画する楽しさを改めて強く感じる事ができた。 ・今年度は、公開保育で他の園の先生方に保育をみてもらえ、自園の良さに気付くことが出来て良かった。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナが5類以降ということもありいろいろな形の研修が増えているかと思います。特に他園の先生方からの意見は貴重かと思えます。良くも悪くも頂ける意見は、にしふじのみや幼稚園がまだまだよい園になる為のものだと思います。 ・積極的な外部研修や公開保育の実施により他園の先生に見てもらうことが、園の良い点や反省点などの吸収などのメリットがあり学んだ内容を共有することで結果的に、園児や保護者や先生の三者に良い結果をもたらしているのであればとても良いと思う。

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

<ul style="list-style-type: none"> ・教育施設として今やれることをいろいろ企画し行事などを通して「一人一人が輝く子ども」を目標に個性を大切にする保育を通し、自分からやろうとする子は達成できたと思う。 ・研修主題のポディーパークッションを通して、教師や友達と共有し表現する充実感を味わうことにより自己を表現する意欲が育まれてきた。自分の体を大切にし、必要な習慣や態度を幼稚園生活の自然の流れの中で身に付け、見通しを持って自律的に行動していくこと、つまり幼児期において生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期に「生きる力の基礎」を育むことはとても重要であると感じた。 ・幼稚園は「初めての学校・教育をする場」であることを基本に新しい発想を取り入れ更に資質の向上に努め。保護者や近隣の方々とのコミュニケーション、そして幼小連携を通して子育ての為の関係づくりを深めていきたい。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み
地域との関わり	幼小連携・回覧板による情報公開・情報の収集・地域内の施設訪問をし交流を深める 地域行事への参加
自己啓発	指導計画の見直しと、報告・連絡・相談を密に保育の営みを連携しながら更に向上させたい
基本的な生活習慣	家庭、地域、幼小等、連携を密にして実践する

6 学校関係者評価委員会からのコメント

- ・新しい先生とベテランの先生方と刺激しあい良い環境の中で保育をされているのではないかと思います。
- ・幼稚園から園児の声や先生方の楽しそうな声、頑張っている様子が聞こえると、こちらも嬉しくなりエネルギーをもらえます。これからもよろしくをお願いします。
- ・幼稚園は自立した社会人への第一歩です。しっかりと自己肯定感が育つ様に大きな愛情で支えてくれる事を願っています。
- ・幼稚園教育（幼児教育）は理論だけではなく、人間としての先生とのかかわり方が大きく影響するかと思います。常に自己研鑽を重ね信頼される先生になるように頑張ってください。応援しています。
- ・お掃除をしてくれた先生に園児たちが大きな声でお礼を言っていることがとても良いと思う。園に来ると子供たちも先生たちも元気に挨拶してくれる。
- ・幼稚園の自己評価を見せていただくと子ども達のことを第一に考えているのがよくわかります。保育を行うにあたっての取り巻く環境（自己評価における1～6番）のどれをとっても一つとして欠けてはならないものでどの項目においても真剣に考えられていることがわかります。
- ・子ども達にとって幼稚園は初めての集団生活、教育をうける場であるのでここで過ごす3年間はその後始まる義務教育や高校生活において大きな礎になると思います。それを丁寧に教えることで子ども達の成長につながっていると思います。
- ・消防フェスティバルでマーチングを披露している所を拝見しました。自分の子ども達が在園している時以来久しぶりに直で演奏している姿を見ましたが、相変わらず格好いいなと息をのみました。同時に自分の子供たちが在園していた頃を思い出し目頭が熱くなりました。先生方と子ども達の頑張りには本当に脱帽です。
- ・園からの便り、SNSからの発信、ホームページなどにより重点目標を伝え理解をしてもらえるように努めていると思う。
- ・色々な子がいる、色々な人がいるのが社会。支援を受けている子、周りで見守る子も一人の人間、それが人間社会だと思う。その第一歩の幼稚園としてこのままあり続けてほしい。
- ・幼稚園は一番最初に家庭から出て過ごす社会。幼稚園の近くに住んでいて感じることは、子ども達も先生たちもいつも本当に楽しそう。子供の数は右肩下がり、大変な時期だと思いますが頑張してほしい。
- ・多様性のある子どもたちを受け入れてくれている。その子にあった集団生活が送れるよう先生たちは大変だろうけれど一人一人が幸せな人生を送れるように頑張してほしいと願う。3年間の園生活で学んだ基礎（椅子に座ってられる、困ったことを伝えるなど）小学校に行っても生かされていると感じることが多くあった。小学校生活で学年が変わると不安定にはなるが自分の力で立て直すことができるように育てている。
- ・安全面を考慮し地域住民との関りは大切なことだと思います。先日のマラソン大会を拝見しましたが、保護者の方たちの熱心さに驚かされました。園に対す協力的な姿勢、行事が終わり次第邪魔にならないように帰宅されている所を見ると保護者との連携がスムーズには運んでいると関心いたしました。
- ・先生方の自己評価からは保護者との信頼関係が何よりも大切であることを自覚されているとうかがえます。この信頼関係を築くための日々の努力事項として園児の様子を職員間で共有し保護者とのコミュニケーションを大切にされています。わが子の成長や自信をつけていく姿からも、先生方職員の皆様が一人一人の為に日々対応工夫し保育してくださっているのを常々感じる事ができました。今後とも変わらないの御指導をよろしくお願ひいたします。

